

「つながる、支え合い」 たより

心機一転！ つながり、支え合うことで感じる

ふだんの ぐらしの しあわせ



新しい年度を迎え、健康福祉の里では、障がい者の相談窓口の体制を直営に再編し、令和6年度からの基幹相談支援センターを見据えた基盤整備を進めていきます。引き続き、包括的相談支援を推進していきます。今年度もよろしくお祈いします。

地域包括支援センター



□地域包括支援センター (高齢者に関する相談)

地域で暮らす高齢者とその家族の介護や予防、福祉や医療等に関する様々な相談窓口です。高齢や認知症などになっても、住み慣れた地域でその人らしく「豊かな人生」を送ることができるように、専門知識を持ったスタッフが連携し、必要な機関と協力・調整して、問題解決のお手伝いをします。

福祉課基幹相談支援係・自立生活相談窓口



□自立生活相談窓口 (経済的、お仕事など生活上の相談)

収入面から生活に困っている、仕事がなかなか決まらない、続かない、生活維持の不安や悩み、何から相談したらいいかわからない等、なんでも相談できる窓口です。暮らしを安心させるためにご相談ください。

子育て世代包括支援センター



□子育て世代包括支援センター (子育てに関する相談)

専任の母子保健コーディネーター(助産師・保健師)を配置した子育て世代包括支援センター(母子保健型)を健康福祉の里内に設置し、相談窓口のワンストップ化を図り、妊娠期から子育て期にわたる様々なニーズに対応します。また、定期的なケース検討会により、関係機関との情報共有や支援策を検討する等、常に連携を図りながら切れ目のない支援を行っています。

□福祉課基幹相談支援係 (障がい者相談、ひきこもりに関する相談)

基幹相談支援係は、障がい者(身体的・精神的・発達等)のあらゆる相談に応じる窓口です。主なものとして、障害福祉サービスの利用に関すること、就労に関する相談、障がい者の権利擁護、虐待に関する相談に対応しています。必要に応じて関係機関と連携して障がい者の支援を行います。

令和5年4月号もくじ・・・ P1 心機一転！ つながり、支え合うことで感じる「ふだんのぐらしのしあわせ」

／P2～3 『つながり、気にかけて、支え合う』『地域のお宝』はそこにある！／P4 みなさんのそばに「丸ごと相談員」

『つながり、気にかけて、支え合う』
「地域のお宝」はそこにある！

▼丸ごと相談員の活動を報告

三月二十三日（水）、健康福祉の里研修ホールにおいて、丸ごと相談員（生活支援コーディネーター）事業報告会を開催しました。

この報告会は、丸ごと相談員が、生活支援コーディネーターとしての一年間の活動を相談員自身が資料作成などを通じて振り返り、次年度への活動へつなげることを目的として、昨年度から開催しているものです。

当日は、生活支援コーディネーター活動の支援に活動している、特定非営利活動法人全国コミュニケーションサポートセンター理事長である池田昌弘様にお越しいただき、それぞれの発表についてコメントと総括講義をしていただきました。

▼県内の関係者からも参加いただきました

県内から行政関係者及び生活支援コーディネーターや市内の地域運営組織、民生児童委員など、対面及びZOOMでの配信を含めて60名の方々に参加いただきました。

全ての発表を聴いていた池田理事長からは、『つながり、気にかけて、支え合う』暮らしは「地域のお宝」。困りごとはお互い様なので「自分で何でもできる」と強がらず、遠慮しないで地域の人みんなで支え合いながら暮らすことの『幸せ』を次の世代へもつないでいって欲しいと話されていました。

今後は、より地域で支え合いについて話せる場づくりを進めていきたいと考えています。

● 小さな拠点を生かした重層的なネットワークづくり
丸ごと相談員＝佐々木 隆一を知ってもらう！

- 地域づくりのキーパーソンとなる人・活動団体とのつながり
- 地域の実情を熟知している自治会長・民生児童委員の皆さんは最強のパートナー

自治会長の皆さんと相談員が話し合う様子
地域活動の場での相談員による説明の様子
相談員が地域住民の皆さんと交流する様子

遠野地区

令和4年度は、地域の特性を知る・人を知る・関係性を築くことを目的に、自転車各地区を巡回し、新たな気づきが多くあったと振り返ったほか、重層的なネットワークづくりの基盤づくりのため、各種会議や、広報による活動発信を行ったと報告がありました。これを踏まえ、令和5年度は、①移動支援の充実②通いの場、居場所づくりの拡充③隣近所、自治会単位の支えあいの仕組みづくりに取り組んでいきたいとのことでした。

綾織地区

着任一年目ということもあり、地域を知り、地域住民との関係性の構築に重きを置いた一年度振り返り、地域の様々な活動に参加した様子が報告されました。次年度は、地域住民と“話し合える”関係性の構築を目指し、取り組みたいと語っていたほか、自身の所属法人の理念である“福祉でまちづくり”を地域内に発信し、子供から高齢者まですべての人が自分らしく生活できるよう取り組んでいきたいとのことでした。

生活環境の向上の取り組み

＜綾織町支えあいネットワーク＞

綾織町まちづくり実行ワーキングでは、課題に向けた話し合いを進め、主体的な活動に地域課題の解決への方向性を見つけ、地域住民の「できること」を生かして支えあいの仕組みづくりを行い、綾織町全体がより暮らしやすい町になるため「綾織町支えあいネットワーク」を立ち上げました。



今年度の取り組み

＜巡回＞
ボランティア登録者2名のうち、種別人数は13名程度のため巡回手不足であり、地域ごご広域で南知と自治会単位に声掛けを行い、職員を行った。
＜除雪＞
早めのニーズ対応が求められることから、2班体制にしてのごとに、リーダーが実働把握を行っているグループラインにて連絡網の確立。

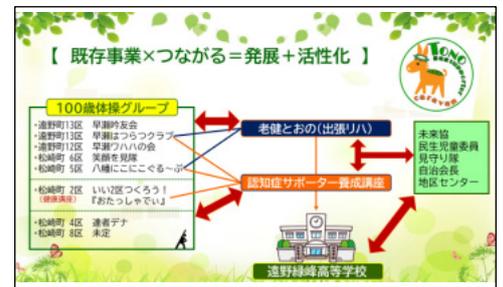
高齢者世帯や空き家の防犯対策等に向け活動しています。

令和4年度実績

	件数	参加人数(のべ)
巡回	15件	64名
除雪	17件	33名

松崎地区

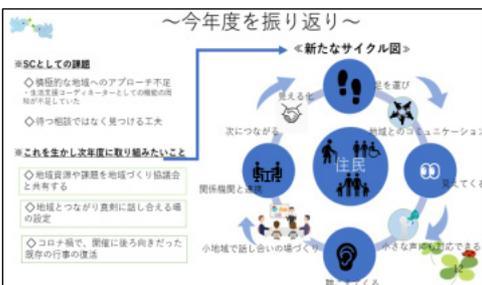
令和4年度の取り組み方針をもとに実施した、多世代交流食堂（フードパントリー型）や支援調整会議、ふれあい農園の取り組みが発表されました。令和5年度は、多世代食堂の食堂機能の再開により、居場所の確保や孤立予防、支援調整会議の展開による地域課題を我がことととらえる意識づけ、ふれあい農園をいろいろな事業と掛け合わせ、地域活性化へといった展望をもとに、地域住民とともに失敗を恐れず調整していきたいと報告していました。



附馬牛地区

相談員自身が、日々の業務で大事にしている地域に足を運び、そこから見たら、聞こえてきたりすることから何が必要か考え、関係機関と連携して、次へつなげるといったサイクルから、つながったストーリーについての報告がされました。また、一年間の活動を通じて現在のサイクルに新たな要素を取り入れたサイクル図ができた振り返り、より一層次年度の活動に意欲的に取り組みたいと意気込んでいるようでした。

～今年度を振り返り～



くろーず あっぷ!

令和4年度遠野市丸ごと相談員 (生活支援コーディネーター)事業報告会



■講師
特定非営利活動法人
全国コミュニティライフサポートセンター
理事長 池田昌弘様

(福)全国社会福祉協議会、(福)栃木県社会福祉協議会、(福)東北福祉会「せんだんの杜」副社長を経て、2005(平成17)年から現職。近年は日常の暮らしの中にある住民同士の支え合いを「地域のお宝」とし、制度やサービスを上手に活用しつつあるお宝を生かす地域づくりを推進する活動を行っていらっしゃいます。

土淵地区

地域交通支援事業「かっぱちゃん号」運行の取組みや、属性などにとらわれず、誰しものが気軽に集える居場所づくりとした、出張地域活動支援センターと協働した「ひだまりルーム」の取組みを中心に発表されました。



青笹地区



地域で何か楽しいことをやりたいとこぼした地域住民の声に耳を傾け、丸ごと相談員(生活支援コーディネーター)として、実現に向けて取り組んでいった過程の発表がされました。残念ながら、順風満帆な過程ではなく、反省すべき点が多かったと振り返っていましたが、失敗から学ぶことも多々あると、皆さんに伝えたいと勇気をもって発表いただきました。次年度は、今年度の反省をもとに、さらに青笹らしい青笹町の取組みを地域の方々と一緒に作り上げていきたいと意気込んでいました。

上郷地区

地区内にある買い物弱者に対し、地域資源の「買い物ツアー」と「移動販売」をマッチングした際に、気づいたことについての発表がされました。買い物弱者とひとくくりせず、個々のニーズ(自分の目で見て買いたい、長時間歩けないなど)をしっかりと聞き取り、地域資源につなげることが重要と振り返っていました。



宮守・達曽部地区

小友・鱒沢地区

宮守町の通院時の課題について把握するため居宅介護支援事業所と連携し、通院マップ作りに取り組んだ様子や、地区センター職員との連携によって事業実施した結果、より一層地域の実情にあった事業が実施できたことなどの発表がされました。次年度は、マップ作りで出た課題について、支援調整会議を活用して協議し、課題解決に向けて取り組みたいと報告していました。

地域状況と通院の現状		若槻橋駅
<ul style="list-style-type: none"> ・町事務所 ・保健所 ・福祉センター ・日中福祉センター ・児童センター ・高齢者センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・通院バス ・タクシー ・自家用車 ・自転車 ・徒歩 ・タクシー ・自家用車 ・自転車 ・徒歩 	
<p>【高齢者実態状況】 高齢者が多くを占めている。空き家数も増えている。実態が多岐にわたる。タクシーを乗りかえて利用。(お金がかるから近いほうがいいという意見あり)</p> <p>【通院手段】 ①ほとんどの方が自家用車または家族、友人の協力のもと通院 ②友人や知人がタクシーを借り ③デマンドバスは予約が必要、時間も決まっている(利用が難しい) ④本町もデマンドバスは実態には行かない ⑤バスまたはタクシー→電車(混雑がひどいことが原因)</p> <p>【利用経費】 駅に閉じていても、達曽部田5.7区からは遠くホーム上がる階段も急、利用者は殆どいない。通院だけでも経費がかかる。買い物部分でも遠くにお店がない。(通院に合わせて買い物をする方や移動販売を利用している方がほとんど)</p>		

みなさんのそばに「丸ごと相談員」



「丸ごと相談員」は、みなさんの地域の相談員として、平成29年度後半に、「丸ごと相談員」を市内3地区に配置してから約四年半が経過しました。これからも皆さんによりそい、支える地域の相談窓口として活動してまいります。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



< 宮守・達曽部地区 >
くまがい たつや
熊谷 達也
(社会福祉法人ともり会)



< 附馬牛地区 >
きくち しずこ
菊池 静子
(遠野市社会福祉協議会)

< 土淵地区 >
きくち ともえ
菊池 巴
(遠野市社会福祉協議会)



< 青笹地区 >
くじ まなぶ
久慈 学
(遠野市社会福祉協議会)

< 小友・鱒沢地区 >
きくち りつこ
菊池 律子
(遠野市社会福祉協議会)

< 上郷地区 >
やち しんや
谷地 信弥
(遠野市社会福祉協議会)

< 綾織地区 >
きくち なおみ
菊池 直美
(遠野市社会福祉協議会)

< 遠野地区 >
ささき りゅういち
佐々木 隆一
(遠野市社会福祉協議会)

< 松崎地区 >
きくち かおり
菊池 薫
(医療法人社団 敬和会)

